

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 330 回 研究会 (新春セミナー)

- ◆日 時 平成 31 年 1 月 16 日 (水曜日)
 - ◆場 所 THE KASHIHARA
 - ◆講 師 狂言師 茂山 忠三郎 先生
 - ◆内 容 第一部 講演 「狂言の和らい」
第二部 狂言 「寝音曲(ねおんぎょく)」
仕手 茂山 忠三郎 先生
挨拶 山口 耕道 先生
後見 増田 健 氏
- 新年会(懇親会)

今回の新春セミナーは、狂言師の茂山忠三郎先生をお迎えして開催しました。

最初に上田会長より、「平成が終わり新しい時代が始まる。制度や経済が変わるのをチャンスと受け止め、会社運営につなげていきたい。」と新年のご挨拶があり、新春セミナーを開講しました。



上田会長 ご挨拶

今回の講師としてお迎えした茂山忠三郎先生は、京都府のご出身で、昭和 57 年お生まれの 36 歳です。能楽師大蔵流狂言方、茂山忠三郎家、4 世忠三郎先生の長男としてお生まれになり、父に師事、4 歳にて「伊呂波」の仕手で初舞台を踏まれました。海外への芸術文化交流にも力を入れられアメリカやヨーロッパなど海外公演も多く、オーケストラなど他ジャンルとのコラボレーションにも盛んに取り組むなど古典芸能における高い敷居の固定観念を外すべく日々活動されています。近年は、ワークショップや狂言教室を開催し、大人から子供まで精力的に指導に当たられています。

第 1 部講演は、「狂言の和らい」と題して、狂言の歴史や鑑賞ポイントなどを解り易くお話頂きました。狂言は奈良発祥の古典芸能で、大和猿楽が起源とされています。約 600 年前に大成され、代々受け継がれてきた文化に価値があり、平成 25 年には無形文化遺産に登録されています。そして、狂言はパントマイムでもあるので、想像力を働かせて、「見る」「聴く」「感じる」美しさを楽しむ芸能であるとのことでした。



第 1 部 ご講演

第 2 部は、仕手に茂山忠三郎先生、挨拶に山口耕道先生、後見として当会顧問である増田健氏にご出演頂き、「寝音曲（ねおんぎょく）」をご披露頂きました。内容は、主人（山口耕道先生）が酒宴の帰りに、たまたま太郎冠者（茂山忠三郎先生）の家の前を通りかかったところ、上手な歌を耳にします。翌日早速、自分の前で歌を歌うように命じます。太郎冠者は、今後たびたび主人の前で歌わされては困ると考え、まず酒を飲まなければ歌えないと嘘をつきます。酒を飲ませても太郎冠者は歌わず、次には妻の膝枕で

なければ声が出ないと更に嘘をつきます。どうしても太郎冠者の歌を聞きたい主人は自分の膝を貸してやります。仕方なく太郎冠者はしぶしぶ歌いはじめますが、寝ているときは歌えるのに、起きると声が出なくなるようなふりをします。ところが酒に酔った太郎冠者は繰り返すにつれて、膝枕のときに声を出さず、起こされたときに声を出してしまい嘘がばれてしまいます。しかし主人は怒らずに「声もよう出て面白いことであった」と太郎冠者を褒めますが、恥ずかしくなった太郎冠者は「南無三宝、忘れました。許されい」といって逃げてしまうという結末で、微笑ましい主従関係を描いた和やかな狂言でした。

講演後も参加者より多くの質問があり、日本の古典芸能に深く親しめた新春セミナーとなりました。



第2部 狂言

セミナーの後は、新年会としまして懇親会を行い、会員各位、来年の展望などを語り親睦を深めました。